

## 黒羽芭蕉の館だより ⑰

### 地域学習会を開催します

このたび当館と那須文化研究会(会長・木村康夫氏)の共催による「地域学習会」を開催します。

那須文化研究会は、那須地域(平成の大合併以前の北那須7市町村)をフィールドとして、歴史・民俗・考古・地理・自然・産業・経済・文化に及ぶ分野を調査・研究し、那須地域の総合的理解を深めることを目的としています。

発会は昭和62年(1987)4月で、今年が26年目となり、会員は現在152名です。

発会以来毎年、会誌『那須文化研究』を発行しており、今年2月には最新号(第25号)が発行となりました。

当会誌に掲載される論文などひとつの目玉となるのは、那須地域のいづれかの地区を対象としたプロジェクト調査報告書です。

そしてその成果を地域の人々に還元する目的で、毎年「地域学習会」を開催しているのです。

本年度は会誌第25号掲載論文をもとにする形で、次のおり学習会を開催しますので、お気軽にお越しください。もちろん当研究会の会員以外の方の参加も大歓迎です。

●日時 7月28日(土)  
午後1時30分〜3時30分

●テーマおよび報告者

①「那珂川水運と河岸問屋仲間について」

報告者 那須文化研究会会員  
大高純一氏

②「黒羽藩主大関家による最重要史料の保存措置」

報告者 当館学芸員 新井敦史  
黒羽芭蕉の館 研修室

●受講料 無料

●定員 40名(定員になり次第締め切り)

●申込方法 7月5日(木)から27日(金)までに、黒羽芭蕉の館の窓口へ直接または電話・ファクスで申し込み。



大関家の最重要史料入りの御朱印箱

#### 問い合わせ

黒羽芭蕉の館

TEL (54) 4151

## 彫刻

### 市内で作られた作品とその作者

## 周遊 ③⑥

このコーナーは、「那須野が原国際彫刻シンポジウム」で公開制作、設置された作品とその作者を連載で紹介いたします。

この作品は、黒羽支所の正面玄関からみて右側にある作品です。



外見は抱きしめあった家族のように見えます。中心に子どもがいて、その子どもを母親が抱きしめ、さらにその上から子どもと母親を父親が抱きしめているように見えます。

「抱擁は確かなボディランゲージ」と作者は語ります。ほかの哺乳類と違って、生まれたての人間の子どものは自分の力で何かをすることができません。泣き

わめいて不快を知らせることがせい

#### 響き

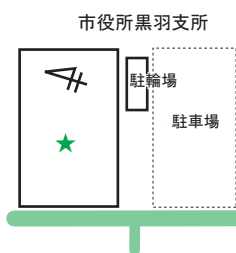
ふじき 藤木 康成 日本 2002年

ぜいです。移動するにも食事をするにも、抱きしめてもらえなければ何もできないのです。

この作品は、そんな「おおくの愛を受けた幼少の記憶」を思い出すような優しい作品に仕上がりました。

作者は藤木康成氏。金沢美術工芸大学を卒業。1989年に第3回現代具象彫刻大賞展にて大賞を受賞し、その後も積極的に展覧会に出展を行っています。

#### 設置場所案内図(★印)



また、2004年には第36回京都野外彫刻展で作品を京都府に買い上げられ、翌年にはねりんピック福岡で彫刻部門県外審査員となるなど、各地で活躍をされています。

#### 問い合わせ

文化振興課文化振興係 TEL (23) 8718